

今、憲法問題を語る — 憲法問題対策センター活動報告 —

第46回 「女の平和」1.17国会ヒューマンチェーン報告

憲法問題対策センター委員 杉浦ひとみ (51期)

2014年7月集団的自衛権が閣議決議され、今後、他国のために戦うことのできる具体的な法律が作られ戦争に近づいていく気配を感じた夏の終わり、これまでデモも抗議行動もしたことのない女たちの「今、私たちが何かしなくては」という声があちこちで起こっていました。背中を押された女たちが意を決し「女たちは人を殺し合うのは嫌いです。よその国の戦いに加わりません。子どもたちを戦争に行かせません。憎しみ



国会をバックに 写真提供: WAN

と戦いを拡大させません。女たちは、集団的自衛権の行使を認めません」そんな訴えをもつて2015年1月17日に国会を取り囲もうと呼び掛けました。行動のテーマは「女の平和」。この語を検索すると、男女平等の国アイスランドで、1970年「レッド・ストッキング」という古い因習を打ち破る運動を見つけました。私たちは、この史実に倣い赤を身につけて、今の政権にレッドカードを突きつけようと、華やかで楽しそうだと、一致しました。こうして、全国に呼びかけ人を募り、ヒューマンチェーンを作る準備を進めていきました。ところが、12月14日に降ってわいたような衆議院選挙での自民党の大勝。政策が支持されたと平然と言う安倍晋三首相に対し、直後となるオール女性を冠したこの行動、失敗は絶対に許されないと緊張感が高まりました。果たして当日は朝から晴れわたりました。国会の1周は2キロ弱で、約2500人でチェーンができます。11時頃から徐々に人が集まりだし、どんどん明るさ、華やかさと元気な雰囲気があふれてきました。

国会正門前に簡単なステージを作り13時から湯

川れい子さん、澤地久枝さん、落合恵子さん、神田香織さんや福島の問題を武藤類子さん、沖縄の問題を高里鈴代さん等タリレートークが次々に続きました。チェーンが作れるだろうかという当初の不安を打ち消すように、あっという間に国会議事堂が赤の波に囲まれました。14時から15時の間に4回結んだチェーンは2重3重になり、取り囲んだ赤色の参加者が手をつなぎ、鎖を突き上げての大きなシュプレヒコールで国会を包囲しました。

人波はずっと増え続け、実行委員側の確認では、参加者は7000人を優に超えていました。なお、今回は、国会周辺に集まって下さったみなさんに、国会正門前でのスピーチやコールのリードが一斉に伝わるように、国会の周りをぐるりと有線をつなぎ、一部道路を横断する箇所では、配線の防護シートによる事故のないように、その間は無線で飛ばすという高度な技術を使い、国会の周りを一丸にすることができました。

この行動は、組織での人集めをすることなく、呼びかけ人からひとりひとりへのお誘いと、新聞を見たという個人での参加が多かったことが特徴でした。まさに、「主権者は私たちです」というコールを裏打ちするものでした。そして、行動は東京にとどまらず、同日、雪の札幌や、南国の長崎、先立つ10日に徳島でも「女の平和集会」がもたれたほか、



長崎での集会

ハワイやシカゴでも「女の平和」行動がありました。

一般参加の弁護士の他、警備担当にあたった弁護士、カンパで貢献していただいた弁護士など、多くの弁護士も一緒に行動していただきありがとうございました。